

# ハゼやカニ タイヤまで…逢妻川を学ぶ

富士松南の小4と「角文」社員ら調査  
刈谷市富士松南小学校の四年生百三十四人が一日、

同市の総合建設業「角文」（泉田町）の社員や愛知教育大生と一緒に、地元の逢妻川の環境を調査した。児童が校区の環境を調査



川に入り、生き物とごみを集める児童ら。刈谷市泉田町の逢妻川で

年前から協力する。児童は、教員や十二人の社員、理科教員を志す愛知大の学部生と大学院生十一人と川へ入り、膝までつかりながら生き物とごみをタモで採集。「ハゼがいた」「タイヤだ」「靴を見つけた」と声を上げた。マハゼ、ベンケイガニとみられる稚ガニなど十数匹を採

取した一方で、酒類の缶や瓶、カセットテープなど大量のごみが集まった。河川敷で、大人が捨てたはずのごみと子どものごみに分類すると、多くは大人のごみだった。角文社員で県環境学習指導者の神谷幸彦さん（68）は「ごみを捨ててはいけない」と注意するのは大人なのに、なぜかみ話した。（神谷慶）

「多浜中心詩さん（60）は「多くの空き缶や木炭のごみがあったことをみんなに知ってもらいたい。きれいで、生き物が安全に暮らせる逢妻川になるように、できることを考えていきたい」と話した。」